

# 東島根中校長雑感

足立区立東島根中学校

令和5年6月8日 令和5年度 第4号

## 一生懸命が感動を生む！

校長 大瀧 訓久

私の一番のエネルギー源は、生徒の頑張っている姿を見ることである。だから授業中よく校舎内を巡回（徘徊？）してパワーを補充している。また、学校の成果や課題は、全て生徒が教えてくれる（見せてくれる）と信じている。3学年第1回目の学年練習、最後に行われた全員リレーで一周近く離れた3位のクラスが決してあきらめずにアンカー含め最後まで全員が手を抜かず全力で走っていた。この姿を見て、今年の運動会の成功を確信した。常日頃から、他人との比較ではなく「ライバルは自分自身」、自己ベストの更新を目指して取り組んでいこうと語ってきた。最高学年の生徒たちがしっかりと実践してくれていた。そして、全学年で取り組んだ『ドミノブリッジ』。初体験の1年生にとってはとてもハードな競技だったかもしれないが、コロナ禍で失った「体力・耐力」の強化にもなり、本校の教育目標の一つ『やり通す』にも繋がるはずである。よく頑張りました。密で熱い集団活動が出来なかった約3年間、学生時代に、勝っても負けても涙を流せる体験を沢山経験してもらいたい。その経験が、人を一廻りも二廻りも強く逞しくしてくれる。

努力して結果が出ると、自信になる。

努力せず結果が出ると、傲り（おごり）となる。

努力せず結果も出ないと、後悔が残る。

努力して結果が出ないとしても、経験が残る。

努力した者が、必ず成功するとは限らない。

しかし、成功した者は、必ず努力していた。

東島根中学校は、これからも「一生懸命が感動を生む」「努力することの大切さ」「強い思いが形になる」ことをしっかりと生徒たちに体験・伝えていきたいと思っております。

たくさんの感動をくれた生徒たちに感謝するとともに、練習や音響等でご迷惑をお掛けした地域の皆様、子供たちを温かく励ましてくださった保護者の皆様、当日の係に忙しく働いてくださったPTAの皆様には厚く御礼申し上げます、第63回運動会成功のご報告とさせていただきます。

## 今後の予定

- |                                     |                      |
|-------------------------------------|----------------------|
| 6月10日（土）土曜授業（学校公開）、学校説明会 11:00～     | 28日（水）専門委員会（7月分）     |
| 12日（月）専門委員会                         | 29日（木）小6中学校体験        |
| 13日（火）身体体力測定、1年：内科健診                | 30日（金）中央議会           |
| 15日（木）中央議会                          | 7月 3日（月）生徒集会         |
| 19日（月）生徒集会                          | 5日（水）小中連携研修（授業・東島根中） |
| 22日（木）前期中間考査（英・数・国） <u>給食なし</u>     | 11日（火）1年：魚沼自然教室保護者会  |
| 23日（金）前期中間考査（社・理） <u>給食なし</u> 、避難訓練 | 12日（水）～14日（金）2年：職場体験 |
| 26日（月）3年：実力テスト                      | 19日（水）大掃除            |

## 15の試練 ~君たちは、決して一人ではない~

小学校の低学年からメガネをかけ、愛読書は「コロコロコミック」。運動音痴の私の次男は、中学入学と同時に「水泳部」に入部した。小学校時代は鼓笛隊でトロンボーンを吹いていたので、両親共に中学校では吹奏楽部に入ると思っていた。本人は、兄がソフトテニス部に入っていたので、中学校の部活は運動部に入らなければいけないと勝手に思い込んだらしい。さて、自分には何の運動ができるか。幼い頃に兄と一緒にスイミングスクールに少しだけ通っていたことを思い出し、球技はまったくできないが、水泳ならできだろうと軽い気持ちで入部届を提出した。ところが水泳部に入ってビックリ。顧問の数学科の教員は大学まで水泳の名選手、スイミングスクールでのコーチ経験もあるバリバリの顧問であった。スイミングスクールに通ってなくても、学校の部活動で全国大会に出場するという夢を持っていた。何と、5月の初めから9月下旬まで学校の屋外プールで練習。校庭や体育館と違いプールは水泳部が使い放題。毎日、練習である。大会に出場すると息子の学校の生徒たちの日焼けした黒い体が妙に目立った。冬場は近くの温水プールを借りての練習と筋トレ。へたなスイミングスクール顔負けのハードな練習であった。といっても、都大会での上位はスイミングスクールに通う有名選手たち。息子と同年の渡部香生子選手は怪物のような泳ぎをしていた。しかし、さすがの運動音痴の息子も、平日は平均2時間で5000m、休日は一日18000mを毎日泳がざれば自然とタイムは上がってくる。下級生にスイミングスクールの選手経験者も加わり、徐々に都大会で上位を狙えるチームになってきた。身長も急激に伸びた息子は、ついにリレーのメンバーに選ばれた。息子中3最後の夏の都大会。この都大会で全国大会の標準タイムを超えると全国大会に出場することができる。息子たちの400mメドレーリレーのチームは、全員がベストを出して標準タイムに届くかどうかである。メドレーリレーは、第一泳者は背泳ぎ、第二泳者は平泳ぎ、第三泳者はバタフライ、第四泳者は自由形である。不器用な息子は最終の自由形。全員が最後の力を振り絞って泳ぐ、最終の息子が「任せろ！」と勢いよく飛び込む。チームは「行け、大瀧！」の大合唱である。そして、自己ベストタイムを出して息子がゴールする。何と、標準タイムよりも2秒以上速いタイムであった。「やった！」「全国だ！」プールから上がった息子を中心に4人が満面の笑みで飛び跳ねている。その時、場内にアナウンスが入る。「第〇コース、△△中学校、第三泳者と第四泳者の引き継ぎ違反により失格」。息子の△△中学校は失格。第四泳者、息子のフライングである。リレーの引き継ぎは、飛び込み方による若干の誤差もあるため、機械計測でタッチから飛び込むまでの時間が-0.03秒までは認められている。顧問が本部に確認しに行くと息子は-0.05秒フライングしていた。その差0.02秒。泣き崩れている息子の姿を見ながら、その時親は何もできなかった。ただ周りの人たちに頭を下げて謝るだけであった。その晩、いつも食欲旺盛な息子は初めて夕食を食べなかった。スポーツは素晴らしい。速い選手は美しい、強い選手はカッコいい。ただし、スポーツは残酷でもある。「神は乗り越えられない試練は与えない」とマザー・テレサはいう。この息子が15歳で与えられた試練は何を意味するのであろうか。中学卒業後、息子は高校でも意地で水泳を続け、水泳部の部長として部員をまとめた。大学では水泳から離れ、現在社会人5年目、毎日遅くまで働き、休日はボーイスカウトの活動をしている。

今でも、プールサイドで標準タイムを切って満面の笑みで4人が飛び跳ねている姿と失格が分かり一人泣き崩れている息子の姿がはっきりと脳裏に映る。失格から12年、未だにこの試練が何を意味しているのか私にはよく分からない。けれども、私自身で言えば、息子が15歳でうけた試練と比べると、大人の私が直面する全ての困難が小さく見え、どんな試練にも立ち向かえる「力」をもらったように感じる。

君たちに知っておいてもらいたいことがある。

君たちが喜びと、その2倍喜んでくれる人がいることを、

君たちが悔しがると、その3倍悔しがってくれる人がいることを、

君たちが悩むと、その5倍悩んでくれる人がいることを、

そして、その人たちは、最後まで君たちを見守り、応援してくれていることを。